

3 地域別の動向

(1) 北海道



北海道地域では、景気は一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しに足踏みがみられる。
- ・ 個人消費は緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用情勢は持ち直している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

前回からの主要変更点

	前回(令和4年9月)	今回(令和4年11月)
景況判断	緩やかに持ち直している	一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している
鉱工業生産	持ち直しの動きがみられる	持ち直しに足踏みがみられる
雇用情勢	緩やかに持ち直している	持ち直している

1. 鉱工業生産等の動向

(1) 第一次産業は生乳生産は前年を上回り、主な水産物の生産額は前年を下回っている。

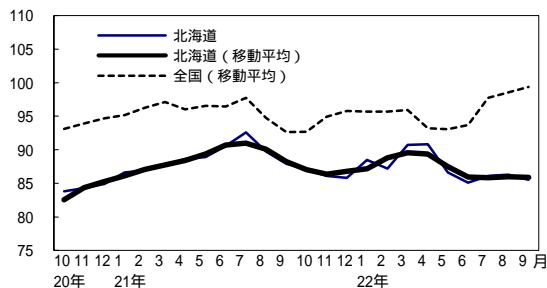
7 - 9月期には、生乳生産は総量では1,084,720tと前年比0.5%増となった。主な水産物の生産額(主要9港)は、さんま等が減少したため、前年比17.5%減となった。

(2) 鉱工業生産は持ち直しに足踏みがみられる。

7 - 9月期の鉱工業生産は、食料品が減少したこと等により、前期比1.7%減となった。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

鉱工業生産指数



	付加価値 ウェイト	生産				
		4 - 6 月期	7 - 9 月期	7月	8月	9月
食料品	25.9	0.8	2.4	4.2	1.0	1.1
パルプ・紙	13.1	3.1	1.9	6.0	4.3	4.6
電気機械	9.1	3.0	4.2	5.9	9.5	8.6
鉄鋼	7.9	7.2	14.8	12.8	6.4	0.7
化学・石油石炭製品	7.6	1.3	7.1	6.0	11.6	4.1
鉱工業	100.0	1.5	1.7	1.2	0.2	0.9

(備考) 1. 2015年=100、季節調整値。北海道の最新月は速報値。

2. 全国及び北海道の太線は中心3か月移動平均。
直近月は2か月平均。

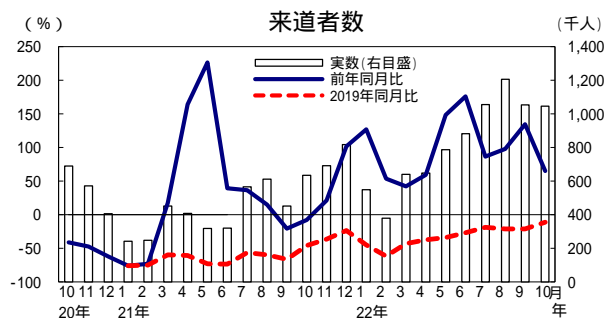
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 7 - 9月期、9月は速報値。

(1) 北海道

(3) 観光は緩やかに持ち直している。

7 - 9月期の来道者数は、航空機の利用者増などがあり、前年同期比103.8%増(2019年同期比20.6%減)となった。月別では、7月に前年同月比86.4%増(2019年同月比18.8%減)、8月は同97.4%増(同21.3%減)、9月は同134.1%増(同21.6%減)となった。10月は同64.7%増(同11.3%減)となった。



(備考) 北海道観光振興機構調べ。

2. 個人消費の動向

個人消費は緩やかに持ち直している。

(1) 地域別消費総合指数(RDEI(消費))

7 - 9月期は前期比0.7%減となった。月別にみると、7月は前月比0.4%増、8月は同0.7%減、9月は同1.3%増となった。

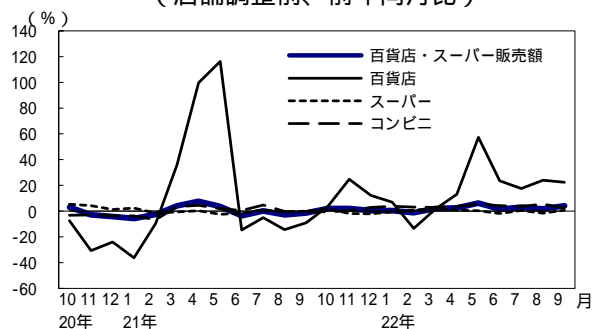
(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、7 - 9月期は前年同期比2.9%増となった。月別にみると、7月は前年同月比3.1%増、8月は同1.7%増、9月は同4.1%増となった。

百貨店は、7 - 9月期は前年同期比21.3%増となった。

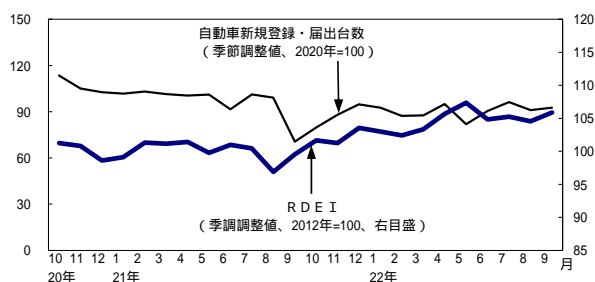
スーパーは、7 - 9月期は同0.0%増となった。

百貨店・スーパー販売額等
(店舗調整前、前年同月比)



	2022年7-9月	7月	8月	9月
RDEI(消費*1)	0.7	0.4	0.7	1.3
百貨店・スーパー(*2)	2.9	3.1	1.7	4.1
百貨店(*2)	21.3	17.8	24.2	22.6
スーパー(*2)	0.0	0.6	1.4	1.0
コンビニ(*2)	3.9	3.7	5.3	2.8
乗用車(*3)	5.3	4.8	6.6	31.9
(季節調整値)(*3)	4.7	6.4	5.4	1.9

RDEI(消費)と自動車新規登録・届出台数の推移



(備考) 1. 季節調整前(月)比(%)

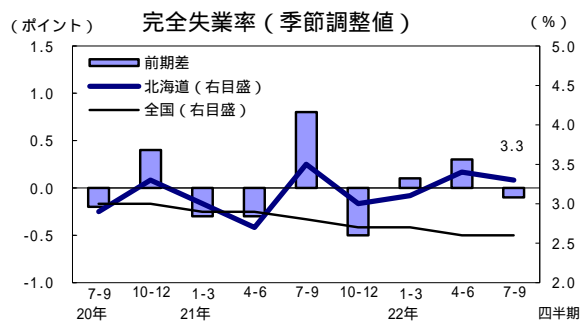
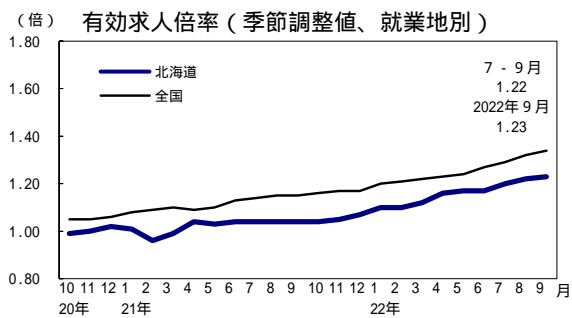
2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

3. 雇用情勢

雇用情勢は持ち直している。

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を下回っている。



(13) 景気ウォッチャー調査（令和4年10月調査）景気判断理由の概要

1. 北海道

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

分野		判断	判断の理由	
現状	家計 動向 関連	□	・メーカーの生産台数が回復していないことから、良くなる見通しが立たない。現状を維持したまま横ばいで推移している（乗用車販売店）。	
		○	・物価上昇による消費抑制傾向が強くなっていたが、10月に全国旅行支援が始まったことで、国内旅行需要が急速に拡大している。また、秋季は北海道の修学旅行時期であり、新型コロナウイルス感染症発生前のにぎわいが空港に戻つつある（旅行代理店）。	
		▲	・物価高の影響で食品、特に生鮮関連の販売量が落ち込んでいる（百貨店）。	
	企業 動向 関連	□	・果物の収穫状況は良いものの、原材料費の高騰が続いていることから、景気は変わっていない。また、野菜の価格が下がらないため、当社製品の販売量は横ばいが続いている（農林水産業）。	
		▲	・客の購買動向が慎重になっている（家具製造業）。	
		○	・引き続き前年比5%程度の伸びで推移している。年内はこうした状況が続くと予測される（その他サービス業 [建設機械レンタル]）。	
	雇用 関連	□	・ここ数か月と同様に、求人数は堅調に推移している。特に最近は管理職の求人が目立っていることから、営業の拡大に合わせてチームをまとめる管理職の需要が高まっている。一方、求職者数については、ここ数か月、業界全体的に減少しており、12月のボーナスを前に、就職活動を手控えている様子がうかがえる（人材派遣会社）。	
		○	・飲食、観光、清掃業界で好調との声をよく聞く。ただ、主力の建設業界の低調が続いていることは懸念材料である（求人情報誌製作会社）。	
	その他の特徴 コメント			□：新型コロナウイルスの新規感染者数の減少に伴って来客数も増えると予想していたが、結果的に変化はみられなかった（タクシー運転手）。 ▲：あらゆる物が値上がりしていることで、客の節約志向がますます強くなっている（スーパー）。
	先行き	家計 動向 関連	□	・商品単価は上がっているが、来店頻度の低下やより安い商材にシフトする動きが強まることで、客単価が上がらないことが懸念される。光熱費、人件費などの運営コストも上がるため、今後の景気が良くなることは考えにくく、良くて現状維持である（コンビニ）。
○			・全国旅行支援が始まり、観光客の増加と併せてクーポン券の利用が見込まれるため、閑散期ではあるが、来客数の増加が見込まれる（高級レストラン）。	
企業 動向 関連		▲	・新築住宅を取り巻く環境について、人口減少、カーボンニュートラル、円安、資材高騰など、良くなる要素が見当たらないことから、今後の景気はやや悪くなる（金属製品製造業）。	
		□	・民間建築の見積り引き合いが増えていること、次年度の公共土木工事受注へ向けた動きが本格化していることから、今後も好調なまま推移する見通しに変わりはない。ただ、原材料や燃料の価格高騰と急激な円安が一層の建設コストアップにつながり、工事の採算悪化や設備投資マインドの減退を招く懸念が大きくなりつつある（建設業）。	
雇用 関連		□	・原油価格や原材料価格の高騰、円安など、企業の事業環境の悪化を招く要因は多いものの、今のところは業況堅調な事業所からの求人もあって、新規求人数が増加している。新規求職者数も前年と比べて減少していることから、雇用環境は持ち直しの動きが続くことになる（職業安定所）。	
その他の特徴 コメント			□：インバウンドの予約は徐々に増加しているが、新型コロナウイルス感染症の第8波も予想されることもあって、先行予約の出足が鈍い。また、航空便の海外路線もまだ十分に回復していないことから、今後も景気は変わらない（観光型ホテル）。 ▲：夕方から営業するような飲食店やアパレル業種の人手不足には厳しいものがあり、今後、営業を縮小するおそれもあることから、景気はやや悪くなる（求人情報誌製作会社）。	

(D I) 現状・先行き判断D I（北海道）の推移（季節調整値）

